

何故、今、自衛隊輸送機を？

◎東南アジアの一つの国：カンボジアが揺れています。

※アンコールワット遺跡をシンボルとするカンボジア国内で、フン・セン第二首相が、ラナリット第一首相を武力追放するという、内戦状態が続いています。

フン・セン派の軍は、民衆から物品を略奪し、ラナリット派関係者の大量逮捕を開始し、一方、政府高官や、シアヌーク国王らの王族は、出国しました。これに対して、アメリカやドイツは、カンボジアへの援助を凍結・停止を決めるなど、各国の経済制裁の中で、国家歳入の四割以上を外国援助に依存するカンボジアは財政破綻の可能性もあり、又、十日には、東南アジア諸国連合（A S E A N）は、今月下旬に予定していたカンボジアの加盟を延期しました。

※国際社会は、二人の首相の対立によって、国会が形骸化し、政治の機能が麻痺し、民衆に多くの被害が及んでいることを憂い、ラナリット第一首相の帰国を含め、国王との会談や、総選挙を通じた民主政治の回復を願っています。

※そのカンボジアには、観光客を含む四百人近い日本人がいるとのことです。橋本首相は、日本人救出を理由に、自衛隊輸送機を小牧基地から那覇基地に移動させ、更にタイに移動させるように指示しました（十日）。

※確かに「自衛隊法・百条の八」に、「緊急事態では、日本人の輸送に自衛隊機が使用できる」と定められています。しかし、混乱しているとはいえ、一時閉鎖されたプノンペンからの国際航空便（民間機）は、既に再開しているのです。

※なのに何故、橋本首相は自衛隊輸送機を使用しようとするのでしょうか？

※それは、日米防衛協力のための指針の見直しをにらんだ実績づくりであり、自衛隊を多くの場で活躍させ、国民からの賛成・喝采を得ようとする

るところにあるとしか考えられません。

※私たちは、この自衛隊輸送機の使用を絶対に許すことはできません。日本政府は、自衛隊輸送機派遣の形でカンボジアに関わるのではなく、シアム・クワン王とフン・セン氏が速やかに会談する要請などの努力をすべきと考えます。

一九九七年七月十三日（日）第三六五回・憲法を守る平和行進

浜松市憲法を守る会

事務局 浜松市紺屋町三〇一〜十五